

参考にした 新聞記事	掲載 された日	記事の要約	自分が考えたこと。改善案など
強化 岡山県教委が取り組み	2024年 6月29日	新型コロナウイルス禍で運動機会が制限されたことにより、2022年度の小中学生を対象とした体力テストの全種目の合計点の平均が08年度の調査開始以降で最低を更新した。こうした状況を受けて岡山県教育委員会は24年度には、体育指導に優れた教員を「体育向上推進リーダー」として派遣した。このような授業を充実させるための取り組みが始まっている。	私もコロナ禍で外出することが減り、体力が落ちたことを実感している。小中学生は特に運動が大切な時期だと思うので、今までの自粛期間の分まで取り戻せるくらい充実した体育ができると理想的である。だから体育指導に優れた教員を派遣する取り組みはとても良いと思った。さらに少人数の学校は、近くの学校と合同授業をすることで、大人数でしかできないスポーツができたり、新しい人との出会いの場を作ることができると思う。
加速 インフラ復旧遅れ、人口流出	2024年 7月1日	能登半島地震から7月1日で半年がたった。地震による死者は災害関連死を含め299人となる見通しである。また、全半壊となった建物を自治体が解体する「公費解体」の完了数が4%であることも石川県のまとめで判明した。被災地ではインフラ復旧の遅れが深刻で、能登半島からの人口流出も加速していて問題視されている。	日本は東日本大震災など大規模災害が多く、災害についての対策はされてきた。だが、今回の能登半島地震から対策の不十分さを知ることができた。これから大切になることは避難所の整備だと私は考えた。避難所の環境改善を進め、できるだけ良い環境で過ごすことができれば災害関連死が少しでも減るのではないかと思う。私たち個人ができる対策としては防災バッグをつくる、避難場所の確認などがある。いちばん大切なことは災害を身近なものとして考え、一人一人が対策をしていくことだと記事を読んで思った。
滴滴 「衣替え」を考える	2024年 6月1日	夏服冬服を一気に入れ替える人は2割で徐々に替える派が4割超、全くない人は3割以上いる。そのとき必要な服を手頃を買って、着て、手放して、短いサイクルで衣服を回すことが珍しくなくなった。大量生産、大量廃棄をどうなくしていくかという課題がある。国は循環型ファッションの生産、販売を促す指針を今春初めて作った。消費者も適量を考えなければいけない。買いすぎずに、使わなくなったら再利用できる道を探す必要がある。	大量生産、大量廃棄をなくすために国は業界向けの指針を作ったけれど、消費者も服を捨てているから捨てる量を減らせるような工夫もした方がいと思う。着なくなった服を回収するところを作って、再利用の道を探るのが難しかったり面倒くさかったりする人でも、ほとんどみんなが着ないようにすればいいと思う。服の大量生産、大量廃棄が問題になっていると知らない人をなくすために、環境に配慮した服をもっと宣伝した方がいいと思う。



キミスタ 主に高校での利用を想定し、山陽新聞社が4月にリリースしました。メインコンテンツは「ニュースを調べる」。紙面掲載記事の一部を6ジャンル・34キーワードごとに収録しており、横書きテキストと紙面切り抜きイメージで読めます。記事への意見や要約を生徒が書き込める機能もあります。このほか、新着記事や要約を毎日1〜3本配信する「ニュースを読む」と、ベテラン記者によるコラムなどを届ける「お知らせ」コーナーも設けています。

生徒の知識増やすツール

社会の動きから課題を見つけ、自分なりに考える。高梁高（高梁市）の1年生は、総合的な探究の時間（総探）で必要な力を身に付けるツールに、新聞を使いました。（太田知二）

高梁高・総探「方谷学」

高梁高の総探は「方谷学」の名前で、1年から2年、3年まで続けて学びます。地域にある課題を見つけ、調査や改善策の提案に取り組み進路につなげるのを目指します。今回初めて、実社会を知る手がかりとして新聞を活用した学習支援サイト「キミスタ」を用いました。

担当した鈴鹿裕一教諭は「生徒の知識を増やすこと」を期待します。サイトで読める34のキーワードごとに分類した記事には、公共交通の衰退や増える空き家など地域の課題をとらえたものも多く「世の中の出来事に触れ、掘り下げる過程で最初の選択肢になる」と説明します。

1年生149人は夏休みに「キミスタ」から興味がある記事を2本選び、読んだ感想や問題の解決案をまとめました。9月の発表会では、グループに分かれて内容を述べ合いました。

食品ロス削減を目指す総社市の学習会、西日本豪雨を教訓に進める倉敷市の防災授業、スマートフォンの長時間利用がテーマのコラム「滴一滴」…。生徒が取り上げる

地域課題掘り下げる力を

話題はさまざまです。北朝鮮が韓国にロケット砲を威嚇発射した話題から、平和への危機感を口にする生徒もいました。関心が地域にとどまらず、全国や世界に広がっているようでした。

発表を終えた生徒に話を聞きました。能登半島地震を報じた記事を読んだ大月彩莉さんは「避難所のケアが手薄だったのを初めて知った」と気づきを語ってくれました。太田音秋さんは、岡山県内で進む路線バス減便の対策として「人材確保のため、女性が働きやすい環境作りに力を入れては」と提言しました。

医療関係を目指す進路と関連し、減塩について紹介する記事に興味を持ったのは田中愛珠さん。「世界との比較で、日本人の塩分摂取量が多いのが分かった。物事を考えるのにニュースを知るのは大事だと感じた」と話しました。

鈴鹿教諭は「生徒の視野を広げ、課題解決のヒントになる話題が新聞にはある。これからも活用してほしい」と呼びかけています。



記事の要約や感想を述べ合う高梁高の1年生